

海外講演報告（タイ トラン）

1.	日程	2013年 11月9日（土）・10日（日）
2.	地域（概要含む）	タイ トラン
3.	担当者（人数・役割）	舘岡洋子（早稲田大学） プラパー・セーントーンスック（国際交流基金バンコク 日本文化センター専任講師）
4.	海外講演の形態 （講演・シンポ・WS・その他）	講演＋WS
5.	主催 （招聘・科研・個人・その他）	国際交流基金バンコク日本文化センター さくら地方研修会
6.	テーマ（タイトル）	9日午前、10日午前：「協働の学びの場をデザインする ーピア・ラーニングの実践ー」（舘岡） 9日午後、10日午後：「漢字指導法」（プラパー）
7.	内容の概要	以下、報告は舘岡担当部分について <講演の目的> ①教室とはどのような場なのか考える ②協働で学ぶ意義を理解する ③自分の教室で実践できるピア・ラーニングを考える <流れ> 11月9日 9:00～12:00（途中15分休憩） ①活動1：あなたをめざす教室は？ ②講義1：ピア・ラーニングの背景 ③活動2：学習者体験 11月10日 9:00～12:00（途中15分休憩） ④活動3（質問コーナー）：ピア・ラーニングへの疑問 ⑤講義2：協働による学びをどう深めるか ⑥活動4：授業デザインの実際 ⑦活動5：振り返り
8.	参加者 （人数・背景・声など）	16名 参加者は3、4名の大学教員を除いて高校日本語教師。 16名のうち日本人2名、タイ人14名。午前の講演は日 本語で行いタイ語に通訳。午後の講演はタイ語。
9.	担当者の内省	講演の柱を①講義、②学習者体験、③教師としてのデ ザインの体験と3本設けた。人数も比較的少なく、2日 間にわたる研修だったために、2日目の朝、今までの疑

		<p>問など質問コーナーを設けた。そこでは、自身の現場と前日の研修内容を結びつけて多様な質問が出、その質問に対して受講者同士の活発な話し合いが起きた。このような場ができたのが、この研修の成果であろう。また、2日目の教師としての授業デザインの時間を設けることができたのもよかった。</p>
10.	次回への課題	<p>今回の研修により、自身の現場で小規模でもピア・ラーニングを実施することができれば、その体験をもとに再度、研修会を開き、実践を持ち寄る場があるとよいだろう。ぜひやってみたい、できる、という実感をもつためには、研修は一度だけでなく数回繰り返すべきであろう。</p>